

41%とやや低いことと腐植土が多かったため、表面硬化転圧輪でぬりつぶして表層を固める効果が十分でなかったものと考えられる。さらに、表面にボラが露出した傾斜地の約12アールの圃場においては、畦立作業時間、約77分、回行・後進時間、約24分を要し、総所要時間、101分であった。直進時作業速度は、毎秒当たり0.16メートルを示し、圃場作業量は、毎時当たり7.0アールで圃場作業効率、44%の低い値で、機械調整、後進、回行に費やす時間が多かった。作業後の畦の表面硬度（mm）は、前述のように、それぞれ6.5、7.3、9.5の値を示し、特に、ボラの露出した畦は、降雨によって侵食された。なお、畦立作業後の畦表面の硬さは、日を経ても保持され、畦の頂上のみが降雨による侵食で凹凸が目立つ程度であった。

以上、2ヵ所の圃場条件における畦立作業

についてみると、土性、土壤水分、畦の形状、腐植の含有率、圃場の膨軟度等の要因が、畦の表面硬化に大きく影響することが明らかになった。

4. 畦立法といものの性状及び浸透水量

本機で畦の表面を硬化した区、マルチチャでマルチを敷設した区、リッジャで畦立てした慣行区について甘しょの収量をみると、「高系14号」では、総いも重及び上いも重ともに硬化区>マルチ区>慣行区の傾向を示し、硬化区の10アール当りの総いも重、上いも重はそれぞれ2,053kg、1,982kgであった。

また、「ベニオトメ」でも、同様の傾向を示し、硬化区の10アール当りの総いも重、上いも重は、それぞれ、1,766kg、1,645kgであった。甘しょの長径比についてみると「高系14号」では、総いも及び上いもともに慣行区>マルチ区>硬化区、の傾向を示し、硬化

無窮花(ムクゲ)に想う

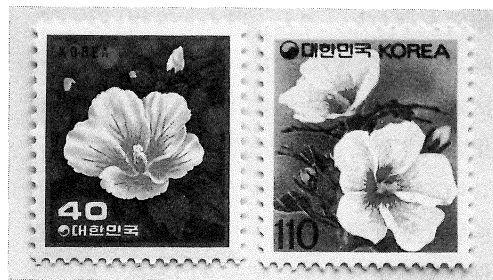
ゴールデン・ウィークは職場の仲間と一緒に韓国旅行に出かけた。旅の目的は、観光、買い物、カジノ、と言ったカ行に集約されたと言えるが、私こと熟年おじんには気楽なりフレッシュであった。両国の人びとは、人類の進化とか分化とかの関係からみると、共通の遺伝子を多く持っているもので、裸になれば区別は不可能に思えた。それでも、在日経験のあるガイドさんが、韓国の女性のほうが間違いなくスマートで美しいと幾度も強調していたことが、南大門市場の汚さと抱合わせで印象に残った。

韓国の木はムクゲに代表されている。

できれば、これもじっくり見たいと出かけたのであるが、グループ旅行という束縛の中で、ようやく釜山の国連軍墓地で整枝された1列を間近かにできた。花は白か紫か、あるいは紫紅なのか未だだったが、芝の広がりや背景に頭部だけを新緑で飾っており、美しかった。

そのハイビスカスのような美しさに惹かれて知床半島の付け根付近にある、ジャガイモの採種地として知られる清里町では町木にしている。

実はこの木はジャガイモのYウイルス病を媒介するワタアブラムシの巣になるものである。



韓国の切手（ムクゲ）

昭和50年代の始めの9月に同町で黒いアブラムシによって丸坊主にされた畑を見たことがあるので、採種地の行く先を思い、ムクゲを愛するのとはほどほどにと心配している。

ムクゲはアオイ科の落葉低木で、庭木とか生け垣として使われることがある。この花を韓国の国木としているのは、花が次つぎと咲き、永遠を連想するためと思われる。しかし、わが国には『槿花一朝の夢』という言葉がある。1つの花だけを見て、朝咲いて夕にはしぼんでしまうはかなさを示すものにもなっている。そのようにならぬよう採種のほうは長く続けてほしい。

（ホクレン主任技師・浅間和夫）